

医療法人慈風会 白石病院脊椎スポーツ外科
鴨川 淳二



神経根の顔

脊椎脊髄由来の痛みは多様だ。私は治療の標的が判りやすいよう以下の解剖; Alignment (A), Bone (B), Cord (C), Disc (D), Epidural space (E), Flava and other ligaments (F), Ganglion and nerve root (G) に注目し、病態病理を意識して診療を行っている。中でも神経根由来の痛みは、ペインクリニックで多く扱われる。しかしこの定量と定性は未解決である。造影検査でも神経根の視認性は低く、形態変化は捉え難い。特に脊柱変形が高度なら責任神経根の同定は困難である。

私はこれまで3D MRI/CT fusion imageで神経根の三次元可視化に挑戦してきた。圧迫因子と圧迫されている神経根を同時に評価できる一目瞭然の画像を作りたかったからだ。神経根の扁平化や腫大が形として見えてくると痛みの原因へ近づく。

ペインクリニックの治療後に診断を推測することがある様に、脊椎外科でも術中顕微鏡にて初めて病態が判ることが多い。

今後、神経根を治療の標的にする場合は、放射線科と協力して徹底的な画像診断に挑むべきであろう。また神経根マクロを観ている脊椎外科とも協力して、健常と病気の神経根の顔の違いを知る努力をしたいものだ。

私は東京オリンピックまでに、詳細な神経根の可視化を実現させたいと考えている。痛みの相手が見えるという希望を、患者・医師双方に与えたいからだ。